

日本紀元	年號	干支	閏月	皇	室	公家	武家	雜	支那
二四二二	寶曆一三	癸未	正(癸未三五) 七(癸未三五)	○天皇 居*皇子 ○十一月初即位	○上皇 △仙洞 *開明門院(藤定子二月院號)		老井上利容(三月院號) 老松平康福(十二月兼補)	四月屋敷督及改名家督の令を發す ○十一月入參座を神田紺屋町に設く	清
二四二三	明和元	甲申	正(癸未三四) 六(癸未三四) 十二(癸未三四)				老酒井忠寄(五月院號) 老松平康福(五月專任) ○老阿部正右(十一月兼補)	二月圖書集成一千卷船載す	乾隆英宗
二四二四	寶曆一三	癸未	正(癸未三五) 七(癸未三五)				老阿部正右(十二月專任)	十二月多紀安元酒齋館(醫學館)を神田佐久間町に建つ ○座頭の高利を貸すを禁す	三〇四一
二四二五	明和元	甲申	正(癸未三四) 六(癸未三四) 十二(癸未三四)				老阿部正右(七月卒) 老板倉勝清(八月補) 老格田沼意次(八月補)	三月御藏門徒を追捕す	三一四二
二四二六	寶曆一三	癸未	正(癸未三五) 七(癸未三五)				老阿部正右(七月卒) 老板倉勝清(八月補) 老格田沼意次(八月補)	七月科條類典編纂成る ○八月山縣大貳を斬に、藤井右門等を獄門に處し、竹内式部を入丈島に流す、小幡城主機田信邦亦連坐して、致仕齋居を命ぜられ、封を出羽北島に移さる	三二四三
二四二七	明和元	甲申	正(癸未三四) 六(癸未三四) 十二(癸未三四)				老阿部正右(七月卒) 老板倉勝清(八月補) 老格田沼意次(八月補)	二月與村政信歿す ○全國人口を調査す ○兼精奉行をして、上水道路の事を管せしむ ○四月水戸仙臺の鑄錢を許す ○五月眞鍮當四錢を鑄る ○十二月俯白隠歿す	三三四四
二四二八	寶曆一三	癸未	正(癸未三五) 七(癸未三五)				老阿部正右(七月卒) 老板倉勝清(八月補) 老格田沼意次(八月補)	十月青木敦書歿す ○賀茂眞淵歿す	三四四五
二四二九	明和元	甲申	正(癸未三四) 六(癸未三四) 十二(癸未三四)				老阿部正右(七月卒) 老板倉勝清(八月補) 老格田沼意次(八月補)	七月税米及大豆等換金上納に關する令を下す ○十二月空米相場を申禁す	三五四六
二四三〇	寶曆一三	癸未	正(癸未三五) 七(癸未三五)				老阿部正右(七月卒) 老板倉勝清(八月補) 老格田沼意次(八月補)		
二四三一	明和元	甲申	正(癸未三四) 六(癸未三四) 十二(癸未三四)				老阿部正右(七月卒) 老板倉勝清(八月補) 老格田沼意次(八月補)		

日本紀元	年號	干支	閏月	皇	室	公家	武家	雜	支那
二四三一	寶曆一三	癸未	正(癸未三五) 七(癸未三五)	○四月即位 *兼仁親王(八月生)	○正月櫻町殿遷御 *恭禮門院(藤宮子、五月皇太后、七月院號)	前右藤常雅(二月院號) 内藤季晴(四月院號) ○太藤内前(十一月任) 藤輝長(四月任) 關藤内前(八月院號) ○前右藤實顯(十二月院號)	田安宗武(六月院號)	四月早稻の故を以て五ヶ年間の食約を令す ○六月諸大名行列の時從者の投槍を禁す ○是歲伊勢神宮御蔭參流行す	三六四七
二四三二	明和元	甲申	正(癸未三四) 六(癸未三四) 十二(癸未三四)				老田沼意次(正月本院任)	二月江戸大火(目黒行人坂火事) ○四月江戸内藤新宿を再興し、甲州街道の宿驛となす ○九月南條二朱銀を鑄る	三七四八
二四三三	寶曆一三	癸未	正(癸未三五) 七(癸未三五)				尾張治休(六月院號)	八月禁裏頭田村肥後等を斬に處す、連坐の者多し ○實惠に道與大師と勅諭す	三八四九
二四三四	明和元	甲申	正(癸未三四) 六(癸未三四) 十二(癸未三四)				將軍家治(四月日光社參)	九月俳人千代女歿す	三九五〇
二四三五	寶曆一三	癸未	正(癸未三五) 七(癸未三五)				將軍家治(四月日光社參)	四月池野大雅歿す ○五月朝鮮との貿易杜絶により年々一萬二千兩を宗氏に賜ふ	四〇五一
二四三六	明和元	甲申	正(癸未三四) 六(癸未三四) 十二(癸未三四)				將軍家治(四月日光社參)	七月諸大名行列の間敷を狭くして往來すべき事を令す ○是歲伊豆大島噴火す	四一五二
二四三七	寶曆一三	癸未	正(癸未三五) 七(癸未三五)				將軍家治(四月日光社參)	六月竹内式部に連坐の公卿等を赦す ○閏七月初鮮人參販賣者を定む ○是歲貸金に高利を食りたる鳥山檢校等を罪す	四二五三
二四三八	明和元	甲申	正(癸未三四) 六(癸未三四) 十二(癸未三四)				將軍家治(四月日光社參)	十月薩摩櫻島噴火す ○十二月平賀源内歿す	四三五四
二四三九	寶曆一三	癸未	正(癸未三五) 七(癸未三五)				將軍家治(四月日光社參)		四四三五
二四四〇	明和元	甲申	正(癸未三四) 六(癸未三四) 十二(癸未三四)				將軍家治(四月日光社參)		四五四六
二四四一	寶曆一三	癸未	正(癸未三五) 七(癸未三五)				將軍家治(四月日光社參)		四六四七

日本紀元	年號	干支	閏大月	皇	室	公家	武家	雜	支那
二四四一	天明元	辛丑	正(甲子)二三 五(閏五小) 六九十一	◎天皇 后*皇 子居	◎上皇 △仙 院洞	前右藤經胤(正月薨)○ 大藤尙實(五月薨)○前 右藤季晴(十一月薨)	一橋家齊(閏五月家治 世子)○老久世廣明(九 月薨)○老格水野忠友 (九月薨)○老松平輝高	正月江戸大火◎八月續糸綿改所を廢す◎是歲 精運上の事につき武藏上野の土民等蜂起す 二月近松中二受す◎七月下總印幡沼の開墾を命 ず◎是歲司天臺を淺草に設く 六月横井也有受す◎七月淺間山噴火す◎十二月 與謝蕪村歿す◎是歲諸國大飢饉○司馬江漢綱版 を削す 三月佐野政言、若年寄田沼意知を營中に斬る◎六 月伊勢貞丈歿す◎十一月仙臺藩に五年間仙臺通 寶を鑄るを許す◎十二月朝廷官務外記の朝服を 改制す◎是歲諸國飢饉、奥羽殊に甚し 八月首領の制を定む 正月醫學館再建る○湯島聖堂災す◎十月田沼 意次の封二萬石を削る◎十二月月岡雪鼎歿す	支那 朝鮮
二四四二	二	壬寅	正(庚子)二四 六八十二			前内源前豐(十二月薨)			四七 六
二四四三	三	癸卯	二(辛丑)四五 七九十一						四八 七
二四四四	四	甲辰	正(壬子)二四 六七九十一			關藤尙實(二月詔)○前 關藤内前(三月薨)	老久世廣明(正月卒)○ 老水野忠友(正月本任) ○細川重賢(十月卒)		四九 八
二四四五	五	乙巳	正(癸丑)三六 七九十二						五〇 九
二四四六	六	丙午	二(甲子)四七 九〇(閏十 大)十二			關藤尙實(三月薨、九月 薨)○關藤輔平(三月 詔、五月左罷)○左藤輝 良(五月任)○右藤經 熙(五月任)○内藤家孝 (五月任)	將軍家治(九月薨、意次 俊明院)○老田沼意次 (閏十月補)		五一 〇
二四四七	七	丁未	正(庚子)四七 九十二						五二 一

日本紀元	年號	干支	閏大月	皇	室	公家	武家	雜	支那
二四四八	八	戊申	正(甲子)三五 八十二	△土御門殿(正月 災す、賀茂に遷御、 二月聖德院に遷 御)	◎正月林丘寺に遷 御		老阿部正信(二月薨、 三月補)○老水野忠友 (三月薨)○老松平康福 (四月薨)○老松平信明 (四月補)○田沼意次 (六月卒)	正月柴野山藩所の備員となる○京都大火、内裏 二條城等災に罹る◎三月松平定信を以て内裏造 營の事を總裁せしむ◎四月丁銀を造る◎十二月 長崎奉行に命じ拔荷を禁す 三月高價華美なる衣服調度等の賣買を禁す◎九 月岡田清忠幕府の備員となる○賣買を禁す◎十 等の古借金を棄捐し且利子を返せしむ◎十一 月萬石以上諸家の系譜の改訂を命ず	五三 二
二四四九	寛政元	己酉	正(庚子)二四 八十二			内藤家孝(五月薨)○内 藤政熙(五月任)	前大老井伊直幸(二月 卒)○老松平乘完(四月 補)	二月加役方人足寄場を江戸鐵砲洲に設く○長崎 交易の額を減す◎五月興學の禁令を布く○風記 を著す○書翰の類を禁す◎九月旗本の奢侈を 戒め儉約を守り文武を勵ましむ◎十月諸國に令 し郷藏を造り貯穀凶荒に備へしむ	五四 三
二四五〇	二	庚戌	正(辛子)三四 六九十一						五五 四
二四五一	三	辛亥	正(壬子)三四 六八十二			關藤輔平(八月薨)○關 藤輝良(八月詔、十一 月罷)○右藤經熙(十一 月任)○左藤政熙(十一 月任)○右藤治孝(十一 月任)○内藤信通(十一 月任)	二月錢湯風呂に男女混浴を禁す◎五月市人の葬 禮佛事の奢侈を禁す◎九月外國船漂着の處分を 令す○尾藤二州幕府の備員となる◎十月醫學館 を官立とし官醫及其子弟に授業す◎十二月江戸 市の町法を改正し七分積金を始め町會所を柳原 に設く	五六 一	
二四五二	四	壬子	二(庚子)閏 二小)三五 六八十二			内藤信通(正月薨)○内 藤家孝(正月任、尋罷) ○内藤實季(正月任、二 月罷)○内藤忠良(二月 任)	閏二月諸國の人口を調査す◎三月公卿の馬藝を 學ぶを禁す◎五月林子平海防の事を議し罪せら る◎四月肥前温泉火事◎安房國讚岡の牧場 にて白牛酪を製す◎七月砲術練修場を武藏徳丸 原に設く○昌平坂學問所成る◎十月魯船徳丸 漂流民を送り棧室に來り登り陳情に入る◎十一月 皇生父典仁親王に尊號を上らんとす幕府之を拒 む	五七 一	
二四五三	五	癸丑	二(甲子)四六 八九十一				老鳥居忠意(二月薨)○ 老太田實愛(三月補)○ 老松平定信(七月補)○ 老松平乘完(八月補) ○老安藤信成(八月 補)	正月學館の事に因り中山愛親正親町公明江戸に 下向◎二月愛親等松平定信と應接す◎三月愛親 沿岸を巡視す◎六月石川忠房等松前にて營人と 應接し長崎に廻航せしむ◎林子平歿す○高山正 之自盡す◎七月和學講義所を建つ◎九月家齊魯 國漂流の船頭幸大夫磯吉を引見す	五八 一
二四五四	六	甲寅	正(乙丑)三六 八九十一(閏 十一大)						五九 一

日本紀元	年號	干支	閏大月	皇	室	公家	武家	雜	支那
二四七三	文化一〇	癸酉	正(三)三三 九十二(閏 十一)小十二	○天皇 后*皇子居	○上皇 太后*女 院洞	前關藤賴平(正月薨)		三月石清水臨時祭再興す○七月蒲生官平受す○ 九月曾根館奉行等と應接し先年の掠奪を謝す ○尾藤二州受す	清 嘉慶純祖 一八一三
二四七四	一一	甲戌	正(三)三七			左藤治孝(四月薨)○左 藤忠良(四月任)○右藤 實起(四月任)○九月薨 ○關藤政隆(九月薨)○ 關藤忠良(九月任)○右 藤基前(九月任)○內藤 愛德(九月任)	老酒井忠進(四月補)	是歲沿海實測全圖成る	一九二四
二四七五	一二	乙亥	正(三)二四 八十二			左藤忠良(正月薨)○左 藤基前(正月任)○右藤 實祖(正月任)○二月薨 ○右藤政通(二月任)○ 內藤愛德(二月薨)○內 藤齊信(二月任)	將軍家齊(三月右大臣) ○老牧野忠精(十月薨)	是歲類聚國史刻版成る	二〇一五
二四七六	一三	丙子	正(三)二四 六八(閏八 小)十二				老格水野忠成(八月補) ○老阿部正精(八月補) ○老松平信明(八月卒)	九月岩瀬京傳受す	二一六
二四七七	一四	丁丑	正(三)三四 六八十一	○光格三月讓位 ○九月即位 土御門殿藤繫子 (十二月女御)	○光格三月尊號、 院政を行ふ、△櫻 町殿		松平不昧治郷(五月卒) ○老酒井忠進(七月薨) 老水野忠成(七月本任) ○大久保忠貞(八月補)	四月杉田玄白受す○高田屋嘉兵衛受す○五月古 賀精里受す○九月英船浦賀に來る	二二一七
二四七八	文政元	戊寅	正(三)二四 六七九十二			前右藤實祖(正月薨)		三月眞字二分判を鑄る○五月英船又浦賀に來る ○伊能忠敬受す○十月一行院徳本寂す	二二一八
二四七九	二	己卯	二(三)四 六八九十一					六月草字壹分金を鑄る	二四一九

日本紀元	年號	干支	閏大月	皇	室	公家	武家	雜	支那
二四八〇	三	庚辰	二(三)四六 八九十二		○欣子內親王(三 月皇太后)	左藤基前(四月薨)○左 藤政通(六月任)○右藤 愛德(六月任)○十月薨 ○右藤齊信(十月任)○ 內藤公修(十月任)	德川家齊(二月左大臣) ○德川家慶(二月內大 臣)○老土井利厚(七月 卒)○上杉治憲(三月卒) 補○老阿部正精(十月薨) 老松平輝延(十一月補)	六月新銀を鑄造す	二五二〇
二四八一	四	辛巳	二(三)五七 九十二			內藤公修(四月薨)○內 藤尚忠(四月任)		九月瑞保己一受す○十二月松前奉行を廢し其管 地を松前章廣に還附す	宣宗 道光二一
二四八二	五	壬午	正(三)二六 八九十二			關藤忠良(三月薨)○關 藤政通(三月詔)○前右 藤實起(九月薨)		正月式亭三馬受す○二月全國の人口を調査す○ 四月英船浦賀に來る○九月相馬大作(斗米秀之 進)を刑す	二二二二
二四八三	六	癸未	正(三)三七 九十二	○女御藤繫子(四 月薨、追號新皇嘉 門院)		左藤政通(正月薨)○左 藤齊信(正月任)○右藤 尚忠(正月任)○內藤經 久(正月任)○五月薨 ○內藤通明(五月任)○六 月薨○內藤經豐(六月任 任)○內藤忠輝(六月任 任)	老松平輝延(十一月補)	四月松平外記營中に於て本多伊織等を斬りて自 殺す○太田南畝受す○十月清水齊明に十萬石を 賜ふ○是歲立原翠軒受す	三三三
二四八四	七	甲申	正(三)三五 八(閏八)小	○藤繫子(七月贈 皇后)	○九月修學院離宮 御幸	左藤政通(正月薨)○左 藤齊信(正月任)○右藤 尚忠(正月任)○內藤經 久(正月任)○五月薨 ○內藤通明(五月任)○六 月薨○內藤經豐(六月任 任)○內藤忠輝(六月任 任)		正月片山重次郎刑政總類を上る○二月南鐸二朱 銀を鑄る○五月壹朱金を鑄る○七月英船薩摩寶 島に來り狼藉す	四二四
二四八五	八	乙酉	正(三)三五 七十二			前左藤治孝(十月薨)		二月外國船打拂のことを嚴令す○諸國の廻船漁 船等海上に於て外國船と親しむを禁す○九月和 蘭商船の旗草を定む	五二五
二四八六	九	丙戌	正(三)三四 六八十一				老松平輝延(十一月補) ○老格植村家長(十一 月薨)	十月近藤重藏罪ありて分部左京亮に預けらる○ 是歲賴山陽の日本外史成る○藤田幽谷受す	六二六
二四八七	一〇	丁亥	正(三)三四 七八十一				將軍家齊(二月太政大 臣)○一橋治濟(二月薨)	八月菅茶山受す○是歲聖光に大紹正宗國師と勅 諭す	七二七
二四八八	一一	戊子	正(三)三五 六八十一					十二月二分判金を改鑄す○是歲眞雅に法光大師 と勅諭す	八二八

年	日本紀元	干支	閏月	皇	室	公家	武家	雜	支那
天保元	二四九〇	庚寅	三(己丑)閏 三小)四七 八十一十二	◎天皇 后*皇子居	◎上皇△仙 院洞	前右藤愛徳(三月薨)	一橋治濟(二月贈内大臣) ◎松平定信(五月卒)	二月高橋左衛門段(六月近藤守重歿)○南 錄一朱銀を鑄る◎七月二分判金を改鑄す 三月家齊吹上に於て相撲上覽◎閏三月石川雅望 歿す	支那 清 道光純組 九二九
二四九一	二四九一	辛卯	二(甲申)六八 十一十二	*統仁親王(六月生)					一〇三〇
二四九二	二四九二	壬辰	正(己未)三七 九十一(閏 十一大)十二				德川光圀(五月贈從二位權大納言)	正月竹尾善筑舊考餘録を上る◎八月巨盜次郎大 夫(鼠小僧)を梟す◎九月頼山陽歿す◎十月二朱 金を鑄る	一一三二
二四九三	二四九三	癸巳	二(壬申)四七 九十一十二				老水野忠成(二月卒) 老水野忠邦(三月補)	六月豐朱金の鑄造を止む◎是歲諸國饑饉、奥羽の 地味に甚し	一三三三
二四九四	二四九四	甲午	二(癸酉)三五 八十二				老青山忠裕(五月薨) 老松平宗發(十月補) 老松平康任(十月補) 老松平康任(十月補) 老松平伊直亮(十二月補)	正月米價騰貴江戶市内饑字多し	一四三四
二四九五	二四九五	乙未	二(甲戌)三五 六(閏七小) 八十二				老松平宗發(九月薨) 老太田資始(九月補) 將軍家齊(九月薨)	十月天保通寶を鑄る◎十二月仙石騷動を斷じ、仙 石久利の封を削り閉門を命ず、連坐する者多し	一五
二四九六	二四九六	丙申	二(甲戌)四五 七九十一				老松平宗發(九月薨) 老太田資始(九月補) 將軍家齊(九月薨)	◎是歲諸國飢饉	一六二
二四九七	二四九七	丁酉	正(己未)三五 七八十二				老松平宗發(九月薨) 老太田資始(九月補) 將軍家齊(九月薨)	二月大鹽平八郎亂を大阪に作す(三月平)◎七 月諸國巡見使を發す此後又行はれず◎五兩判、一 分判(保字金)を鑄る◎九月松平頼想歴朝要記を 上る	一七三
二四九八	二四九八	戊戌	二(甲戌)四五 九十一十二				老松平宗發(九月薨) 老太田資始(九月補) 將軍家齊(九月薨)	三月江戸城四九災す◎閏四月勤儉の令を布く◎ 上る◎十二月松平水戸藩英船渡來の事に就て上 す	一八四

年	日本紀元	干支	閏月	皇	室	公家	武家	雜	支那
弘化元	二五〇四	甲辰	正(己未)二四 六八十二	◎天皇 后*皇子居	◎上皇△仙 院洞	准大藤資愛(十月任)	老水野忠邦(二月薨) 老水野忠温(三月補) 老格堀親實(四月薨)	二月外船浦賀に來る◎江戸城本丸成る◎五月市 川團十郎の孝行を賞す◎六月答書を和蘭に贈る ◎九月水野忠邦親親在職中執務不正の故を以 て其封を削る	二五一一
二五〇一	二五〇一	辛丑	(閏正大)三 七九十一				將軍家齊(四月日光社 參)◎老水野忠邦(閏九 月薨)◎老堀田正隆(閏 九月薨)◎老阿部正弘 (閏九月任)◎老牧野忠 雅(十一月補)◎老格堀 親實(十二月補)	三月佛船琉球に來りて互市を乞ふ◎五月江戸城 本丸災す◎水戸齊昭の國政を變更するを責罰し 致仕謹慎を命ず(十一月免)◎八月關艦長崎に 來り國書を呈す	二四一〇
二五〇二	二五〇二	壬寅	正(己未)二四 七九十一				將軍家齊(四月日光社 參)◎老水野忠邦(閏九 月薨)◎老堀田正隆(閏 九月薨)◎老阿部正弘 (閏九月任)◎老牧野忠 雅(十一月補)◎老格堀 親實(十二月補)	正月蘇田市中村の三座を淺草に移す◎二月神 佛の講社を禁す◎三月大坂定謙を討す◎富興行 及文身を禁す◎桶役錢を停む◎六月學問教授所 を勸進寺に再建す◎七月石器器器鉢植草 木等高價の物の賣買を禁す◎役者遊女等の一枚 摺繪及好色本賣買を禁す◎異國船打拂の令を停 め文化三年の令に復す◎十月天保曆を頒行す◎二 宮尊徳召出さる◎寺門靜軒、柳亭種彦、爲永春水 等淫猥の書を著すに坐して罰せらる◎朝廷京都 に學習所を建つ	二二八
二五〇三	二五〇三	癸卯	正(己未)二三 五八(閏九 大)十一				將軍家齊(四月日光社 參)◎老水野忠邦(閏九 月薨)◎老堀田正隆(閏 九月薨)◎老阿部正弘 (閏九月任)◎老牧野忠 雅(十一月補)◎老格堀 親實(十二月補)	三月香川景樹歿す◎五月將軍家慶、水戸齊昭を召 し國政刷新の功を賞す◎閏九月平田篤胤歿す◎ 十二月林述齋徳川實紀を獻す	二三九
二五〇四	二五〇四	甲辰	正(己未)二四 六八十二				將軍家齊(四月日光社 參)◎老水野忠邦(閏九 月薨)◎老堀田正隆(閏 九月薨)◎老阿部正弘 (閏九月任)◎老牧野忠 雅(十一月補)◎老格堀 親實(十二月補)	二月外船浦賀に來る◎江戸城本丸成る◎五月市 川團十郎の孝行を賞す◎六月答書を和蘭に贈る ◎九月水野忠邦親親在職中執務不正の故を以 て其封を削る	二四一〇
二五〇五	二五〇五	乙巳	二(甲申)四五 七九十一				將軍家齊(四月日光社 參)◎老水野忠邦(閏九 月薨)◎老堀田正隆(閏 九月薨)◎老阿部正弘 (閏九月任)◎老牧野忠 雅(十一月補)◎老格堀 親實(十二月補)	二月外船浦賀に來る◎江戸城本丸成る◎五月市 川團十郎の孝行を賞す◎六月答書を和蘭に贈る ◎九月水野忠邦親親在職中執務不正の故を以 て其封を削る	二五一一

Main table on the right page containing historical data for the reigns of Emperor Kōmei and Emperor Kōka. Columns include year (年), era name (元), lunar month (干支), and various events categorized by '皇' (Imperial), '公家' (Courtier), '武家' (Warrior), and '雜' (Miscellaneous).

Main table on the left page, continuing the historical data from the right page. It covers the reigns of Emperor Ansei and Emperor Wan'en. Columns include year (年), era name (元), lunar month (干支), and various events categorized by '皇' (Imperial), '公家' (Courtier), '武家' (Warrior), and '雜' (Miscellaneous).

日本紀元	年號	干支	閏大月	皇室	公家	雜	支那
二五三九	明治四	辛未	正(辛卯)二四 五七九十二	○天皇△皇居口親王 ○皇太后○皇后*皇子女	太三條實美(七月任) ○右岩倉具視(十月任)	正月廣澤真臣害死○鍋島閣更替○三月毛利敬親薨○四月戸籍法改正○五月門跡院廢止○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三二	明治四	壬申	二〇〇四四 七八十二	△赤坂離宮(三月置)○五月畿内山陽西海道巡幸七月遷御	太三條實美(七月任) ○右岩倉具視(十月任)	正月松平容保等の罪を宥す○官制改革○二月新紙幣發行○兵部省廢止海陸軍二省設置○京濱鐵道成る○九月開業○三月近衛兵を置く○神祇省廢止○四月日誌條約訂○五月日誌條約訂○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三三	明治四	癸酉	正(癸卯)三五 七八十二	○五月災す、赤阪離宮に遷御	左島津久光(四月任)	正月政治始、後恒例とす○板垣退助等民選議院設立を建白す○暴徒等岩倉具視を噴霧門外に傷く○二月日誌條約訂○三月日誌條約訂○四月日誌條約訂○五月日誌條約訂○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三四	明治四	甲戌	七八十二	○皇太后宮青山御所に遷幸	左島津久光(四月任)	正月北海通屯田兵設置○英佛二國横濱居留地の衛兵を撤す○三月板垣退助等立憲社を起す○四月左右兩院を廢止○五月日誌條約訂○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三五	明治四	乙亥	七八十二		左島津久光(十月罷)	正月代官規則を頒つ○二月日誌條約訂○三月日誌條約訂○四月日誌條約訂○五月日誌條約訂○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三六	明治四	丙子	七八十二	○六月東奥巡幸、七月遷御 ○熾仁親王(五月元老院議長) ○熾仁親王(二月征討總督九月罷)	内閣顧問木戸孝允(三月任)	正月代官規則を頒つ○二月日誌條約訂○三月日誌條約訂○四月日誌條約訂○五月日誌條約訂○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三七	明治四	丁丑	七八十二	○正月京都行幸、七月遷御 ○熾仁親王(二月征討總督九月罷)	内閣顧問木戸孝允(五月罷)	二月西郷隆盛兵を鹿兒島に擧ぐ○七月第一内閣勸業博覽會開設○九月隆盛等敗死し亂平る○近衛兵二百人暴動(竹橋騒動)○十二月參謀本部設置	支那 朝鮮
二五三八	明治四	戊寅	七八十二	○八月北陸巡幸	内務卿大久保利通(五月病死)	四月岡本保孝殺す○六月菊池容齋殺す○八月陸奥宗光林有造等國事犯によりて處刑せらる○近衛兵二百人暴動(竹橋騒動)○十二月參謀本部設置	支那 朝鮮
二五三九	明治四	己卯	七八十二		太三條實美(二月任) ○左熾仁親王(二月任) ○右岩倉具視(二月任)	正月東奥の刑を廢す○四月琉球藩を廢し沖繩縣を置く○七月米國前大統領グラント來朝○九月學制を廢し教育令を布告す○十二月新聞及雜誌類の讀賣を禁す	支那 朝鮮

日本紀元	年號	干支	閏大月	皇室	公家	雜	支那
二五三九	明治四	辛未	正(辛卯)二四 五七九十二	○天皇△皇居口親王 ○皇太后○皇后*皇子女	太三條實美(七月任) ○右岩倉具視(十月任)	正月廣澤真臣害死○鍋島閣更替○三月毛利敬親薨○四月戸籍法改正○五月門跡院廢止○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三二	明治四	壬申	二〇〇四四 七八十二	△赤坂離宮(三月置)○五月畿内山陽西海道巡幸七月遷御	太三條實美(七月任) ○右岩倉具視(十月任)	正月松平容保等の罪を宥す○官制改革○二月新紙幣發行○兵部省廢止海陸軍二省設置○京濱鐵道成る○九月開業○三月近衛兵を置く○神祇省廢止○四月日誌條約訂○五月日誌條約訂○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三三	明治四	癸酉	正(癸卯)三五 七八十二	○五月災す、赤阪離宮に遷御	左島津久光(四月任)	正月政治始、後恒例とす○板垣退助等民選議院設立を建白す○暴徒等岩倉具視を噴霧門外に傷く○二月日誌條約訂○三月日誌條約訂○四月日誌條約訂○五月日誌條約訂○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三四	明治四	甲戌	七八十二	○皇太后宮青山御所に遷幸	左島津久光(四月任)	正月北海通屯田兵設置○英佛二國横濱居留地の衛兵を撤す○三月板垣退助等立憲社を起す○四月左右兩院を廢止○五月日誌條約訂○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三五	明治四	乙亥	七八十二		左島津久光(十月罷)	正月代官規則を頒つ○二月日誌條約訂○三月日誌條約訂○四月日誌條約訂○五月日誌條約訂○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三六	明治四	丙子	七八十二	○六月東奥巡幸、七月遷御 ○熾仁親王(五月元老院議長) ○熾仁親王(二月征討總督九月罷)	内閣顧問木戸孝允(三月任)	正月代官規則を頒つ○二月日誌條約訂○三月日誌條約訂○四月日誌條約訂○五月日誌條約訂○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三七	明治四	丁丑	七八十二	○正月京都行幸、七月遷御 ○熾仁親王(二月征討總督九月罷)	内閣顧問木戸孝允(五月罷)	二月西郷隆盛兵を鹿兒島に擧ぐ○七月第一内閣勸業博覽會開設○九月隆盛等敗死し亂平る○近衛兵二百人暴動(竹橋騒動)○十二月參謀本部設置	支那 朝鮮
二五三八	明治四	戊寅	七八十二	○八月北陸巡幸	内務卿大久保利通(五月病死)	四月岡本保孝殺す○六月菊池容齋殺す○八月陸奥宗光林有造等國事犯によりて處刑せらる○近衛兵二百人暴動(竹橋騒動)○十二月參謀本部設置	支那 朝鮮
二五三九	明治四	己卯	七八十二		太三條實美(二月任) ○左熾仁親王(二月任) ○右岩倉具視(二月任)	正月東奥の刑を廢す○四月琉球藩を廢し沖繩縣を置く○七月米國前大統領グラント來朝○九月學制を廢し教育令を布告す○十二月新聞及雜誌類の讀賣を禁す	支那 朝鮮

日本紀元	年號	干支	閏大月	皇室	公家	雜	支那
二五三九	明治四	辛未	正(辛卯)二四 五七九十二	○天皇△皇居口親王 ○皇太后○皇后*皇子女	太三條實美(七月任) ○右岩倉具視(十月任)	正月廣澤真臣害死○鍋島閣更替○三月毛利敬親薨○四月戸籍法改正○五月門跡院廢止○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三二	明治四	壬申	二〇〇四四 七八十二	△赤坂離宮(三月置)○五月畿内山陽西海道巡幸七月遷御	太三條實美(七月任) ○右岩倉具視(十月任)	正月松平容保等の罪を宥す○官制改革○二月新紙幣發行○兵部省廢止海陸軍二省設置○京濱鐵道成る○九月開業○三月近衛兵を置く○神祇省廢止○四月日誌條約訂○五月日誌條約訂○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三三	明治四	癸酉	正(癸卯)三五 七八十二	○五月災す、赤阪離宮に遷御	左島津久光(四月任)	正月政治始、後恒例とす○板垣退助等民選議院設立を建白す○暴徒等岩倉具視を噴霧門外に傷く○二月日誌條約訂○三月日誌條約訂○四月日誌條約訂○五月日誌條約訂○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三四	明治四	甲戌	七八十二	○皇太后宮青山御所に遷幸	左島津久光(四月任)	正月北海通屯田兵設置○英佛二國横濱居留地の衛兵を撤す○三月板垣退助等立憲社を起す○四月左右兩院を廢止○五月日誌條約訂○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三五	明治四	乙亥	七八十二		左島津久光(十月罷)	正月代官規則を頒つ○二月日誌條約訂○三月日誌條約訂○四月日誌條約訂○五月日誌條約訂○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三六	明治四	丙子	七八十二	○六月東奥巡幸、七月遷御 ○熾仁親王(五月元老院議長) ○熾仁親王(二月征討總督九月罷)	内閣顧問木戸孝允(三月任)	正月代官規則を頒つ○二月日誌條約訂○三月日誌條約訂○四月日誌條約訂○五月日誌條約訂○六月日誌條約訂○七月日誌條約訂○八月日誌條約訂○九月日誌條約訂○十月日誌條約訂○十一月日誌條約訂○十二月日誌條約訂	支那 朝鮮
二五三七	明治四	丁丑	七八十二	○正月京都行幸、七月遷御 ○熾仁親王(二月征討總督九月罷)	内閣顧問木戸孝允(五月罷)	二月西郷隆盛兵を鹿兒島に擧ぐ○七月第一内閣勸業博覽會開設○九月隆盛等敗死し亂平る○近衛兵二百人暴動(竹橋騒動)○十二月參謀本部設置	支那 朝鮮
二五三八	明治四	戊寅	七八十二	○八月北陸巡幸	内務卿大久保利通(五月病死)	四月岡本保孝殺す○六月菊池容齋殺す○八月陸奥宗光林有造等國事犯によりて處刑せらる○近衛兵二百人暴動(竹橋騒動)○十二月參謀本部設置	支那 朝鮮
二五三九	明治四	己卯	七八十二		太三條實美(二月任) ○左熾仁親王(二月任) ○右岩倉具視(二月任)	正月東奥の刑を廢す○四月琉球藩を廢し沖繩縣を置く○七月米國前大統領グラント來朝○九月學制を廢し教育令を布告す○十二月新聞及雜誌類の讀賣を禁す	支那 朝鮮

日本紀元	年號	干支	皇室	政府	雜	支那
二五六六	明治三九	丙午	○天皇△皇居○皇族 ○皇太后○皇后○皇子女 ○北白川宮恒久王(三月竹田宮創立)○久通宮德彥王(三月朝香宮創立)○久通宮德彥王(十一月東久通宮創立)	總理西園寺公望(正月任)○參謀總長兒玉源太郎(五月任)	正月九條道孝薨○福地櫻痴薨○二月韓國統監府開庭○英國皇族コンソルト殿下來朝○三月東京市議會開會○電報率引上の反對を決議○四月凱旋大觀兵式を行ふ○運羅皇子來朝○五月馬政局設 置○六月矢野次郎薨○七月加奈院通商條約成る○八月黒川眞朝薨○十月根本通明薨○十一月智 利通商條約成る○米國桑港に於て日本學堂放逐せらる○十二月回教徒首長アカ汗來朝	清
二五六七	四〇	丁未	○十一月大演習の爲茨城地方(行幸)○貞愛親王(二月英國(出發)四月歸朝)○皇太子殿下(四月山陰地方行幸)○十月韓國及鹿兒島宮崎大分高知地方行幸	總理桂太郎(七月任)	正月都築大使平和會議より歸朝○橋本雅邦薨○二月貴族院議院増設を可決○三月辰九事件解決 ○韓政府顧問スチーブン傷らる○岩崎彌助の助養○四月陸軍省あり交通機關の被害多かり○臺灣 鐵道成る○軍艦松島沈没○松浦隆吉薨○五月早稲田大學(三萬圓を下賜)○コッポ、シーマン 兩博士來朝○改正赤十字條約公布○六月川上眉山自殺○國木田獨歩薨○七月兒島惟義薨○八月東 洋拓殖會社定款決す○九月大演習延期の勅令を發す○十月馬券發賣禁止令公布○戊申詔勅の換發 米總隊司令官スヘリ入京○野津道貫薨○十一月神戶沖大觀兵式舉行○稻 垣滿次郎逝去○十二月日米協約書發表○東京小石川傳通院焼く○鐵道院官制發布○岡澤精薨	三三 今帝 隆熙 元
二五六八	四一	戊申	○十一月大演習御統監の爲め關西(行幸)○皇太子殿下(四月山口德島地方(行幸)○九月東北地方(行幸)○昌子内親王(四月竹田宮恒久王と御成婚)○菊麿王(五月薨)○親仁王(四月薨)	樞密院議長伊藤博文(六月任)○九月西園寺正毅(五月任)○宮内大臣岩倉具定(六月任)	正月米國滿洲中立提議に回答○米國觀光團來朝○中村秋香薨○二月藤岡作太郎薨○三月佐々木高 行薨○皇太子殿下公布○清國裁員勅令來朝○小杉退職○四月岩倉具定薨○第六號潜水艦沈没 ○櫻田志士五十年祭を行ふ○五月青森大火○英國皇太子薨○印度パロウ國王入京○ハレ、慧星の出 現○廣瀬中佐銅像成る○六月報復事件發生し逆徒殺戮○拓殖局設置○智囊團獨立紀念祭あり○七月 旅順開放○南極探險隊發す○日露新協約成立○八月樺太神社創立○朝鮮併合成る○九月全國大洪 水あり○朝鮮總督府を置く○會館建設○十月朝鮮皇族に授爵す○鳩山和夫逝去○山田美妙薨○ 十一月三備地方の故功臣贈位	三四 二
二五七〇	四二	己酉	○七月本郷前田邸(臨御)○十月樞密院(行幸)○十一月大演習御統監の爲關西地方(行幸)○貞愛親王(四月大演習參列の爲清國(御渡航)○房子内親王(四月北白川宮成久王と御成婚)○皇太子殿下(九月陸地方(行幸)○恒德王(十一月薨)○恒德王(第一御王孫三月御生誕)	宮内大臣渡邊千秋(四月任)○韓國統監寺內正毅(五月任)○十月總督任)	正月南北正閏論起る○兩宮敬次郎薨○逆徒處分判決○二月島地默雷寂す○法然上人に謚號を賜ふ ○三月帝國劇場成る○春橋南薨○四月東京日本橋開通式舉行○日本航海條約公布○日英航海條約公 布○東京吉原大火○乃木東郷兩大将薨○維新史料編纂局官制發布○文藝院委員會官制公布○濟生 會設立○谷干城薨○七月相模遊行寺災○日英協約改訂及日獨日露條約發表○八月東京市電氣局開 始す○桂内閣總辭職○十月清國革命運動勃興○伊土戰爭に關し嚴正中立の宣言○十一月小村善太 郎薨○十二月東京市電車大同罷業あり一時交通杜絶す	三
二五七二	四三	庚戌	○二月内務省を下して窮民を救恤し給ふ、十一月特別大演習統監の爲關西(行幸)○依仁親王(四月英國皇帝戴冠式參列の爲御渡英)○皇太子殿下(八月北海道の行幸)○博恭王(十一月暹羅皇帝戴冠式の爲御渡航)	總理西園寺公望(八月任)	正月大阪大火○東久世通暉薨○木村庄之助薨○大阪罹災救恤の爲御下賜あり○二月學習院文學部燒 失○日露協會成立○清朝滅亡し假政府建設○三教合同を催す○西寛二郎薨○高崎正風薨○池邊吉太郎 歿○日佛航海條約公布○三月山陰鐵道全線成る○坪内雄藏文藝賞牌並賞金を受く○長谷川泰致○東京 洲崎大火○西德次郎薨○韓國併合記念章制定○藤田傳三郎卒○四月石本新六薨○獨逸皇朝レルテマ ル親王來朝○岸本辰雄卒○三井三郎助卒○北海道夕張炭山爆發○五月衆議院總選舉○佛國極東艦隊司 令官ケリス少將來朝○英國東洋艦隊司令官ウヘスロー中將來朝○六月南極探險船歸る○松旭齋天 一歿○島山健致○米國ハバート大學總長エリオット博士來朝○七月巴里日佛銀行設立○皇室會計令 公布○菊池武夫薨○浪速鐵沈没	元
二五七四	四四	辛亥	○五月千葉縣野砲兵射擊學校(行幸)○同月獨逸皇朝御訪問の爲め關西(臨御)○幸、七月帝國大學(臨御)○同三十日順御(大正元年八月明治天皇と御遊説治定、九月伏見桃山陵に葬る)○皇太子殿下(三月山梨縣下(、四月遊賀三重兩縣下(、六月東京府工藝學校(執れも行幸)	參謀總長長谷川好道(一月任)○陸軍上原勇作(四月任、十二月罷)○内大臣德大寺實則(八月罷)○内大臣桂太郎(八月任、十二月罷)○總理西園寺公望等(十二月罷)○總理兼外務桂太郎、内務大浦兼武、陸軍木越安綱、逓信後藤新平、文部柴田家門、大藏若槻禮次郎、司法松室致、農商務仲小路廉(十二月任)○海軍齋藤實(重任)	元	
二五七五	四五	壬子	○七月三十日踐祚九月青山葬場殿(行幸)○十一月御參拜の爲め伏見桃山陵へ、大觀兵式御檢閱の爲め横濱へ、陸軍大演習御統監の爲め川越へ執れも行幸△赤阪離宮(七月)○皇太子妃殿下(七月立后、十一月伏見桃山陵(行幸)○裕仁親王(七月立太子)○戴仁親王(九月御名代として伏見桃山陵(參拜)○各親王諸王(同參拜)	任)	○十一月ウヰルソソ米國大統領就任○橋本圓喬薨○英國貴族觀光團來朝○陸軍大演習舉行○十二月千坂高麗薨○神官神職限制公布○長谷川喬薨○元良勇次郎卒○山内勝明薨	元

日本紀元	年號	干支	皇室	政府	雜	支那
二五七六	四六	甲寅	○十一月大演習御統監の爲關西(行幸)○貞愛親王(二月英國(出發)四月歸朝)○皇太子殿下(四月山陰地方行幸)○十月韓國及鹿兒島宮崎大分高知地方行幸	總理桂太郎(七月任)	正月九條道孝薨○福地櫻痴薨○二月韓國統監府開庭○英國皇族コンソルト殿下來朝○三月東京市議會開會○電報率引上の反對を決議○四月凱旋大觀兵式を行ふ○運羅皇子來朝○五月馬政局設 置○六月矢野次郎薨○七月加奈院通商條約成る○八月黒川眞朝薨○十月根本通明薨○十一月智 利通商條約成る○米國桑港に於て日本學堂放逐せらる○十二月回教徒首長アカ汗來朝	清
二五七七	四七	乙卯	○十一月大演習御統監の爲め關西(行幸)○皇太子殿下(四月山口德島地方(行幸)○九月東北地方(行幸)○昌子内親王(四月竹田宮恒久王と御成婚)○菊麿王(五月薨)○親仁王(四月薨)	樞密院議長伊藤博文(六月任)○九月西園寺正毅(五月任)○宮内大臣岩倉具定(六月任)	正月米國滿洲中立提議に回答○米國觀光團來朝○中村秋香薨○二月藤岡作太郎薨○三月佐々木高 行薨○皇太子殿下公布○清國裁員勅令來朝○小杉退職○四月岩倉具定薨○第六號潜水艦沈没 ○櫻田志士五十年祭を行ふ○五月青森大火○英國皇太子薨○印度パロウ國王入京○ハレ、慧星の出 現○廣瀬中佐銅像成る○六月報復事件發生し逆徒殺戮○拓殖局設置○智囊團獨立紀念祭あり○七月 旅順開放○南極探險隊發す○日露新協約成立○八月樺太神社創立○朝鮮併合成る○九月全國大洪 水あり○朝鮮總督府を置く○會館建設○十月朝鮮皇族に授爵す○鳩山和夫逝去○山田美妙薨○ 十一月三備地方の故功臣贈位	三四 二
二五七八	四八	丙辰	○七月本郷前田邸(臨御)○十月樞密院(行幸)○十一月大演習御統監の爲關西地方(行幸)○貞愛親王(四月大演習參列の爲清國(御渡航)○房子内親王(四月北白川宮成久王と御成婚)○皇太子殿下(九月陸地方(行幸)○恒德王(十一月薨)○恒德王(第一御王孫三月御生誕)	宮内大臣渡邊千秋(四月任)○韓國統監寺內正毅(五月任)○十月總督任)	正月南北正閏論起る○兩宮敬次郎薨○逆徒處分判決○二月島地默雷寂す○法然上人に謚號を賜ふ ○三月帝國劇場成る○春橋南薨○四月東京日本橋開通式舉行○日本航海條約公布○日英航海條約公 布○東京吉原大火○乃木東郷兩大将薨○維新史料編纂局官制發布○文藝院委員會官制公布○濟生 會設立○谷干城薨○七月相模遊行寺災○日英協約改訂及日獨日露條約發表○八月東京市電氣局開 始す○桂内閣總辭職○十月清國革命運動勃興○伊土戰爭に關し嚴正中立の宣言○十一月小村善太 郎薨○十二月東京市電車大同罷業あり一時交通杜絶す	三
二五八〇	四九	丁巳	○五月千葉縣野砲兵射擊學校(行幸)○同月獨逸皇朝御訪問の爲め關西(臨御)○幸、七月帝國大學(臨御)○同三十日順御(大正元年八月明治天皇と御遊説治定、九月伏見桃山陵に葬る)○皇太子殿下(三月山梨縣下(、四月遊賀三重兩縣下(、六月東京府工藝學校(執れも行幸)	總理西園寺公望(八月任)	正月大阪大火○東久世通暉薨○木村庄之助薨○大阪罹災救恤の爲御下賜あり○二月學習院文學部燒 失○日露協會成立○清朝滅亡し假政府建設○三教合同を催す○西寛二郎薨○高崎正風薨○池邊吉太郎 歿○日佛航海條約公布○三月山陰鐵道全線成る○坪内雄藏文藝賞牌並賞金を受く○長谷川泰致○東京 洲崎大火○西德次郎薨○韓國併合記念章制定○藤田傳三郎卒○四月石本新六薨○獨逸皇朝レルテマ ル親王來朝○岸本辰雄卒○三井三郎助卒○北海道夕張炭山爆發○五月衆議院總選舉○佛國極東艦隊司 令官ケリス少將來朝○英國東洋艦隊司令官ウヘスロー中將來朝○六月南極探險船歸る○松旭齋天 一歿○島山健致○米國ハバート大學總長エリオット博士來朝○七月巴里日佛銀行設立○皇室會計令 公布○菊池武夫薨○浪速鐵沈没	元
二五八二	五一	己未	○七月三十日踐祚九月青山葬場殿(行幸)○十一月御參拜の爲め伏見桃山陵へ、大觀兵式御檢閱の爲め横濱へ、陸軍大演習御統監の爲め川越へ執れも行幸△赤阪離宮(七月)○皇太子妃殿下(七月立后、十一月伏見桃山陵(行幸)○裕仁親王(七月立太子)○戴仁親王(九月御名代として伏見桃山陵(參拜)○各親王諸王(同參拜)	任)	○十一月ウヰルソソ米國大統領就任○橋本圓喬薨○英國貴族觀光團來朝○陸軍大演習舉行○十二月千坂高麗薨○神官神職限制公布○長谷川喬薨○元良勇次郎卒○山内勝明薨	元

年 號	干支	皇 室	政 府	雜
日本紀元 耶蘇紀元	丁巳	○天皇△皇 皇太子 ○皇太后○皇后○皇子女	內大臣松方正義 (五月任)	正月臺灣地震○オレオン州排日○衆議院解散○アィダヤ州排日○箱根強震○二月タコル再來○野口小藏 歿○獨逸禁航區域侵入者擊沈を聲明○三月獨逸無警告擊沈を聲明○三月英佛伊各政府 藏省證券を引受發行の交渉成立○露國大革命起る○支那特派大使汪大燮入京○黑田清綱薨去○四月諸頭令 公布○米國獨逸に對し宣戰○七月第三十九議會開院○南洋觀光團入京○折衝局設立○八月米價急暴騰○ 六月李王殿下入京○七月第三十九議會開院○南洋觀光團入京○折衝局設立○八月米價急暴騰○米國鐵 材の輸出を禁止○八月田義人薨去○國立憲法院令公布○九月物價調節令公布○銀の輸出禁止○大暴風雨○ 十月青島に民政を布く○奸商撲滅令發布○攝津大津波○山丸、英福丸等獨逸に擊沈せらる○小領旗幣 十錢、二十錢、五十錢發行○十一月支那政府青島の民政施行に抗議○日米共同の宣言○國技館及廻向院燒 失○聯合興國十四ヶ國の巴里會議開催○十二月池田燕園歿○第四十議會開院○桐野炭坑大暴發
二五七八 七 一九一八	戊午	○八月帝國飛行協會に五十 萬圓御下賜、窮民救恤の爲 め御内帑金參百萬圓御下賜 高等教育機關擴張の思召を 以て内帑金壹千萬圓御下賜 (十一月)十一月栃木町へ大 演習御統監の爲行幸○皇太 子殿下(六月大島行啓)○ 賀彦王(六月薨去)○瑠子女 王(六月薨去)○依仁親王 (十月元帥佩刀並徵求御贈 進の爲御渡英)	總理原敬(九月任)	正月日英元帥號御贈答○ウラジナストク在留人保護の爲に軍艦を派遣○菊池芳文、鈴木松年歿○二 日浦賀船渠工の同盟休業○駐露聯合公使露都を引揚○八幡製鐵所の疑獄起る○三月英佛伊各政府 日本の露國派兵を強要す○獨逸講和條約調印○日支軍事協定成る○四月北海道大學創立○米穀取引の一時 停止○外米管理令發布○東京市長に田尻稻次郎就任○露國日本を共和國の敵なりと宣言○五月米穀買占 の戒告○六月居留民保護の爲陸軍隊油頭に上陸○孫逸仙來朝○英皇瑪リヤト殿下來朝○救濟事業調 査會官制公布○七月南洋民政部設置○大阪市内に日用品販賣の公設市場を開始○露國エルチヤツク將軍 米朝○露國前皇帝純粋○八月我艦隊獨逸を擊沈○對露出兵宣言○露領沿海州北部警備の爲艦艇派遣○ 米價暴騰の爲富山縣清川町に騒動あり次いで各地に蔓延○穀物收用令公布○福岡各放牧の暴動○元帥 佩刀制の公布○米穀の恩賜廉賣○九月寺内内閣辭職○得撫島暴發大海嘯○獨逸兩國の講和提議○大浦兼 武逝去○十月米穀輸入税免除○十一月土方久元薨去○島村抱月歿○休戰條約成立祝賀會○獨逸退位○十 二月新學制發布○第四十一議會開院

支那
中華民國

六

七

年 號	干支	皇 室	政 府	雜
日本紀元 耶蘇紀元	己未	○天皇△皇 皇太子 ○皇太后○皇后○皇子女	內大臣松方正義 (五月任)	正月臺灣地震○オレオン州排日○衆議院解散○アィダヤ州排日○箱根強震○二月タコル再來○野口小藏 歿○獨逸禁航區域侵入者擊沈を聲明○三月獨逸無警告擊沈を聲明○三月英佛伊各政府 藏省證券を引受發行の交渉成立○露國大革命起る○支那特派大使汪大燮入京○黑田清綱薨去○四月諸頭令 公布○米國獨逸に對し宣戰○七月第三十九議會開院○南洋觀光團入京○折衝局設立○八月米價急暴騰○ 六月李王殿下入京○七月第三十九議會開院○南洋觀光團入京○折衝局設立○八月米價急暴騰○米國鐵 材の輸出を禁止○八月田義人薨去○國立憲法院令公布○九月物價調節令公布○銀の輸出禁止○大暴風雨○ 十月青島に民政を布く○奸商撲滅令發布○攝津大津波○山丸、英福丸等獨逸に擊沈せらる○小領旗幣 十錢、二十錢、五十錢發行○十一月支那政府青島の民政施行に抗議○日米共同の宣言○國技館及廻向院燒 失○聯合興國十四ヶ國の巴里會議開催○十二月池田燕園歿○第四十議會開院○桐野炭坑大暴發
二五七九 八 一九一九	己未	○正月南洋福災島民御救恤 の爲御内帑金御下賜、七月 橫須賀へ凱旋艦隊御親臨の 爲行幸、十月海軍大演習御 統監、御服制の改正、十一 月攝津へ大演習御統監の爲 行幸○五月京都へ行啓○皇 太子殿下(五月近畿行啓、 十月海軍大演習に御參加) ○恒久王(四月薨去)○守正 王(四月遼陽に御着任)○瀧 子女王(八月御誕生)○博 義王(十二月一様朝子姫と 御結婚)	朝鮮總督齋藤實 (八月任)	正月露國和使西園寺公望等渡歐○李太王薨御○二月憲法發布三十年紀念祝典○東京各大學學生全國學生同 盟會の大會を開き普通選舉の宣言決議をなす○福島安正薨去○寺崎廣業歿○三月高峯萬世權東京露國 開通○李太王國葬儀を境とし京城に不逞鮮人の暴動起る○天津にて日米兵衝突○四月日露講和條約調印○關東露 官制の改正○文部省内實業事務局新設○五月皇太后五十年祝典○三島發艦式○衆議院議員選舉法改正○上海 各地の排日騒々○山東半島を支配するべき旨を宣明○六月德大寺實則薨去○井上圓了歿○ヴェル サイユ宮殿にて講和條約調印○ジュマン博士來朝○七月平和紀念大觀式○小學教員俸給令公布○期米暴 騰○の前後同盟罷業各所に起る○坂垣退助薨去○農商務省令を以て全國に節米の通牒を發す○朝鮮神社創 立○宣城市に於て日支兵衝突○東京十六大新聞社の労働争議○八月東京市公設市場開業○政府米價調節の 爲東京、大阪、神戸にて外米六萬俵賣出す○朝鮮統治に係る大詔發給○講和使西園寺等歸朝○東京砲 兵工廠、坂橋王子兩工廠の職工同盟罷業○九月友愛會組織を變更し大日本労働同盟友愛會と稱す○齋藤 總督、水野政務總長官京成路の隣地を授けらる○帝國美術院官制公布○川崎造船所職工の同盟罷業○十 一月米國開議の第一回國際労働會議代表委員發給○郵便飛行開始○講和條約可決○横濱沖にて大觀式○十 一月露國演説○寺内正毅薨去○李副公事件の發覺○阿蘇山噴火○呂運亨朝鮮獨立を主唱○十二月米穀 横濱米穀○第四十二議會開院○協約會の設立○是處各地各所労働者の同盟罷業續々四百九十餘件に亘る
二五八〇 九 一九二〇	庚申	○十月大宮行啓○皇太子殿 下(三月九州へ行啓、四月 演習、十月御名代として大 觀兵式御統監、十一月大演 習御參觀の爲御西下)○家 彦王(三月御誕生)○多惠 子女王(四月御誕生)○建 彦王(四月御誕生)○御留學 ○方子女王(四月王世子李 煇殿下に御結婚)○彰常王 (五月御誕生)○山階芳房王 (七月臣籍へ御降下)○安子 女王(十一月淺野長武に御 結婚)		正月獨逸日本學生の入學を拒絶○芳川顯正薨去○生活改善同盟會成る○講和條約批准交換完了○平和 復讐の大詔發給○徳川團圓セテア萬國赤十字社大會出席の爲渡歐○三月普通選舉促進學生聯盟會血判狀 を添へて閣下に請願書を捧ぐ○希圖物來朝○露領樺太居留民保護の爲三笠見島兩艦隊派遣○三月全國 労働聯合會發給○日露軍大衝突○村雲尼遜化○對露方針を中外に聲明○四月我軍浦潮ニコリスコ間の 鐵道占領○米國日本人の入國規則を改正し排日に傾く○米國實業團入京○五月日露軍事商談調印○労働祭 ○國際労働條約調印○英艦隊横濱入港○尼港占領○六月第二回國際労働會議○セニアに開會○登川良平逝去 ○羅馬尼カール皇太子來朝○衆議院正門に爆彈を投ず○七月第四十三議會開院○薩摩州要地占領を聲明 ○日英同盟一年延期○大森房吉等汎太平洋學術會に出席○八月新兵入營期日を十二月十日に改正○内 務省社會局新設○日本社會主義同盟會成る○セミノーフ軍參謀來朝○九月東京國債市場閉市○日置欽仙 遷化○中央氣象學研究所に移轉○國立藥學研究所設置○暴風雨被害○十月第一回國勢調査施行○露皇日本 領事館全燒○米松露遊覽去○尾形月辨、黒岩漢香歿○東京市聯合青年團の成立○十一月明治神宮鎮座祭 執行○加州排日案通過○石川泰彦遷化○日米新條約草案成る○第一回國際労働會議を瑞西ヒョウアに開催 す○十二月ツブ島大風雪○排日問題國民大會を上野公園に開催○東京市長に後藤新平就任○淺間山大 噴火○第四十四議會開院

支那
中華民國

六

七

明治四十一年七月十九日初版發行
 大正十四年八月十五日六增訂發行
 大正四年五月五日增訂發行
 昭和二年九月一日大增訂冊版發行
 昭和四年二月廿一日普及版初版印刷
 昭和四年二月廿五日普及版初版發行

大増訂 國史大辭典



第五回 (増補年表)

縮刷普及版全六冊

定價 金拾八圓
 預約價 金拾參圓

文學博士 八代 國治

早川 純三

井野 邊茂

東京市芝區愛宕町三ノ二
 林 秀美堂印刷所

東京市京橋區鈴木町十二番地
 吉川 弘文館

東京市日本橋區數寄屋町 六合書館

大阪市東區北久太町四丁目 合資會社柳原書店

名古屋市中區下長者町四丁目 合資會社川瀨書房
 東京市京橋區鈴木町十二番地 日用美術社
 東京市牛込區早稻田館卷町 國際美術社

特約發賣所

1880



578
197

578

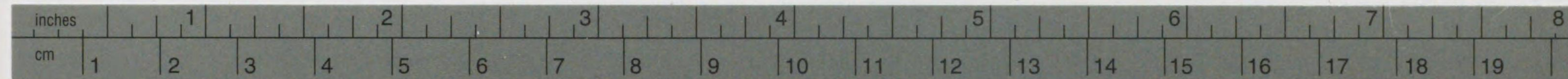
197

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

